

校内研修の活性化

18年11月22日

1 はじめに

事後の研究会がこれまでどおり、「自評一話し合い」でいいのではないかと思っていた。なぜなら、そうでなければ、これまでの長い間、教育の現場で実行されなかったはずだ。また、「校内研修の活性化」と言われることも、いやなことである。つまり、校内研修が活発でないから、意欲的に研究に向かいたくなるような方法を考えるようにということであろう。

そう思っていた私が、考えを変えた理由は、「ワークショップを生かす」という視点が我々教師を意欲付けるだけでなく、子どもたちの意識や考えをも明確にし次のステップへつなげるために有効であると感じたからである。教師の研究のみならず、子どもたちの学習活動にも使える方法であることが、陵南中学校の研究会から読み取れた。

2 南部小でも 「ワークショップを生かした校内研修」を

①11月22日(水)のブロック研 阿部静子先生の体育の授業で・・・運動ブロック

②方法

- 1 授業を参観しながら、付箋に記録する。
- 2 付箋は色別。視点は示します。
- 3 事後研究会のとき、二つのグループに分かれ、一人ひとりの意見(付箋に記録したもの)を読み合う。
- 4 全体で話し合う。グループの代表が報告する。それぞれの意見を聞いて、それに対して考えを述べ合う。
- 5 今後の方向性をまとめる。
- 6 助言などをいただく。

③運動ブロックをさらに、2つのグループに分けて

A グループ・・・研究の視点に焦点を当てたワークショップ

2の1(阿部静) 3の1(軽部) 5の2(兼子) 阿部宏

6の1(山田)

B グループ・・・教師がつけたい力に焦点を当てたワークショップ

1の2(田宮泉、村松) 4の2(工藤) 5の1(小北)

A グループ…研究の視点に焦点を当てたワークショップ

2の1 (阿部静) 3の1 (軽部) 5の2 (兼子) 6の1 (山田)

「運動」の場合 付箋の色	かかわりを持たせる工夫	子どもができていることを大事に 児童の実態から 教材開発を	ふりかえり 次時に生きる 評価を
成果 (桃色)			
課題 (水色)			
アドバイス (黄色)			

B グループ…教師がつけたい力に焦点を当てたワークショップ

1の2 (田宮泉、村松) 4の2 (工藤) 5の1 (小北)

	聴き合う力 人の話を聞く 反応する	見る力 友達のよさや 改善点を 自分の活動を	自己教育力 挑戦する心 向上心 解決力
成果 (桃色)			
課題 (水色)			
アドバイス (黄色)			